

第 4 章

個別の指導計画に基づく実践例

本研究での、個別の指導計画に関する基本的な考え方、及び授業に生かすための工夫と授業への接続の考え方を基にした、各学校での実践例を紹介する。

各実践例では、個別の指導計画の例と指導の形態別の指導計画、単元の指導計画などを基に、本時の実際、評価までを記載している。

1 知的障害養護学校での実践例

授業への接続を図るために、短期目標を指導の形態別の計画及び本時案の中に記入するように工夫した。P29-(2)の実態からP30-(3)の項目別指導計画の短期目標へ課題を絞り込み、指導の形態別の指導計画や本時の指導につなぐことで、短期目標到達に向けての支援策を学校生活全般において具現化できるようになる。

2 肢体不自由養護学校での実践例

実態把握では、肢体不自由のある子どもの状態像がとらえやすいような整理の仕方を工夫した。実態把握に基づき年間目標を設定し、それとの密接な関連をもたせながら、自立活動の指導計画を重点的に示した。特に単元や本時への接続を重視し、教師の目標や手だての評価の観点を明確にしてある。

3 特殊学級での実践例

重点指導目標に掲げた対人関係の改善及びコミュニケーションスキルの育成に関する具体目標や支援の手だて、評価規準が、国語の単元全体及び1単位時間の授業における各指導過程でどのように具体化されるかを示せるように工夫した。各学習活動のねらいや特性に合わせて、手だてや期待する子どもの姿を事前に明確にすることで、個別の指導計画からの情報をそのままおろす形で授業を展開できる。

4 通級指導教室での実践例

長期目標、短期目標から、学期ごとの支援内容を子ども、在籍学級担任・保護者別に明確にすることで、子どもの生活全般にわたる支援内容をイメージしやすくした。また、毎回の活動内容、支援のポイントを明確にし、評価を行っていくことで、次の授業の改善を行いやすくするとともに、学期ごとの評価・指導計画の修正、指導、経過報告などに生かせるようにした。

5 通常の学級での実践例

短期目標（本文P46- ~ ）に対する支援策（同A～E）を単元の全体計画及び本時の計画に書き込むようにし、個別の指導計画と授業との接続を図った。通常の学級における個別の指導計画についても、授業との接続を図るために、実践例のように授業レベルまで関連付けることで具体的な支援ができるようになる。

1 知的障害養護学校での実践例

小学部に在籍するA児 5年 男 (自閉症)

(1) 個人プロフィール

氏名		生年月日	平成 年 月 日 (歳)
保護者		緊急連絡先	-
検査結果等	S-M社会生活能力検査 (H15年7月実施) SA(4:4) SQ(46) 身辺自立 5:11 移動 2:11 作業 5:10 意志交換 3:9 集団参加 3:9 自己統制 4:3		生育歴等 周産期, 乳幼児期に問題はなかったが, 幼児期に友達とのかかわり, コミュニケーションなどに課題があることに気付く。4歳から6歳まで通園施設に通う。
保護者の願い	長期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人とコミュニケーションでき, 自分で働く生活や余暇を楽しめるようになってほしい。 周りの人に迷惑を掛けずに自分のことは自分でできる大人になってほしい。 	
	短期	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや要求などを言葉で伝えることができるようになってほしい。 簡単な指示に従うことができるようになってほしい。 友達の働き掛けに, 受身的にでもこたえることができようになってほしい。 	

(2) 実 態

項目	指導内容	実 態
生活面	着脱 食事 排せつ 清潔習慣 物の管理 スケジュールの理解 安全の認識	<ul style="list-style-type: none"> 身辺処理等は一通り自分でできるが, 言葉掛けがないと忘れることが多い。 特に支援の必要はないが, 偏食が激しいのが家族の悩みである。 大便の処理が不十分なことが多く, まだ確認が必要である。 衣服が濡れてもそのまましていたり手が汚れてもそのままであったりすることが多い。 自分の物と他人の物との区別が不十分である。 日程表等の手掛かりがあれば, スケジュールに沿って見通しをもって参加することができる。 安全への意識が不十分で危険回避できないような場面もある。
運動・身体面	健康状態 手指の操作 全身運動 調整力 持久力 協応動作	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いたり, 粘土遊びをしたりすることが好きである。 雑巾絞り, 箸の操作など手指を使った細かな作業が苦手である。 トランポリンやブランコなどを好み, 長なわとびもできる。 ひも結び, 塗り絵など目と手の協応動作を必要とする活動が苦手である。 キャッチボールやボールをつくなど調整力を必要とする運動は苦手で, 活動への集中時間が短い。 マット上での前転, 平均台などの器械運動は補助があればできる。
学習面	基礎的認識力 ことば かず その他	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受ければ, 写真等を手掛かりに短い文章を書くことができる。 理解言語は豊富であるが, 一語文での言語表出が中心である。 5までの数であれば, 加減ともに計算できる。金銭の扱い, 時間に関する内容が未習得である。 自動車会社, スーパーなどの商標が好きで, マークを見つけると「 」等と教える。
社会性	対人関係 集団参加 コミュニケーション 遊び, 余暇 情緒	<ul style="list-style-type: none"> 日常的で型どおりにまとまっている指示内容は理解でき, 活動への参加状況も良好である。 自分の興味・関心の高い活動には集中して参加できる。新しい環境や活動などへの抵抗感がある。 一人遊びが多く, また, 友達とのかかわりは受け身的な様相が強い。集団での活動には周りの支援によって参加できる。 自己中心性は残るが, 情緒面の自己統制はとれており, パニック等を起こすことは少ない。

(3) 項目別指導計画

中心課題	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の働き掛けを理解するとともに、言葉で意思表示ができる。 集団から逸脱することなく、教師や友達と一緒に活動に参加することができる。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し言葉によるコミュニケーションをとることができる。 衣服や遊び道具などを自分で片付けることができる。 			
題	指導内容	短期目標	具体的な手だて	評価
生活面	着脱 食事 排泄 清潔習慣 物の管理 スケジュールの理解 安全の認識 その他	<p>A 言葉掛けがなくても、衣服の整理、遊んだものの片付けができる。</p> <p>B 月、週、1日のスケジュールに沿って見通しをもって参加する。</p> <p>C 危険予知できるよう、簡単なルールを習得する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 終了確認カードを作り、自分で判断、評価できるようにする。 生活時程表、時間割などで日程を確認しながら行動できるようにする。 自発的なあいさつを待ち、促してできないときには教師からあいさつをし、それにこたえさせるようにする。 	
運動・身体面	健康状態 手指の操作 全身運動 調整力 持久力 協応動作 その他	<p>A 雑巾を洗い自分で絞ってテーブルをふけるようになる。</p> <p>B ひも結び（固結び）ができる。</p> <p>C 相手とボールをやり取りすることができる（キャッチボール、サッカーなど）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 雑巾の持ち方、絞り方を確認し、テーブルの全体をふくようにする（係活動に位置付ける）。 色の違う太めの2本のひもを使ってひも結びの練習をする。 ビーチボール等のソフトな素材のボールで遊びながらやり取りが楽しめるようにする。 	
学習面	基礎的認識力 ことば かず その他	<p>A 主述のある文章を構成できる。</p> <p>B 自分の気持ちを一語文以上のことばで相手に伝える。</p> <p>C カレンダーを見て、今日の日付けを言う。</p> <p>D お金の種類を言うことができる。</p> <p>E 12時、3時、6時などの時刻が分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真等を見て「<input type="text"/>が、<input type="text"/>」と主述を意識しながら、文章にして言えるようにする。 言葉で表現できない場合には、そのときの気持ちを教師が簡単な言葉にして返すように心掛ける。 朝の会でカレンダー調べをし、「今日は 月 日、曜日です」と毎日繰り返し言うようにする。 生活の流れの中で、時計を見ることを意識付け、時刻への関心を高めるようにする。 	
社会性	対人関係 集団参加 コミュニケーション (要求伝達、指示理解、報告、あいさつなど) 興味・関心、遊び、余暇 情緒 その他	<p>A 全校朝会等のときに決められた時間は我慢して集団に参加する。</p> <p>B 物を友達に渡す、持ってくるなどの簡単な指示に従う。</p> <p>C 自分の要求や気持ちを言葉で相手に伝える。</p> <p>D 友達と一緒にいろいろな活動に参加できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> フラフープの輪から出ないように言葉掛けをする。集団の中にいることが苦痛であるような場合には、教室に戻るよう促す。 友達の様子を注目するようにさせたり、対象となるもの等を絵カードや写真カードにして示したりすることで、意識が継続できるようにする。 本児からの自発的な要求については可能な限り、受け止めて実現するようにする。 ロープの輪を使うことで、手つなぎを嫌がらないようにする。 友達とのかかわりが広がるように、教師が手本を示し、その行動を真似るようにする。 	

：達成できた ：おおむね達成できた ：もう少し努力が必要である ：達成できなかった

(4) 指導の形態別（[日常生活の指導「朝の会」] 計画例）

短期目標	1 教科名が書いてある文字カードを、時間割に沿って黒板にはることができる。	指導期間	1学期間に
	2 カレンダーを手掛かりにして、今日の日付や曜日を発表することができる。	学習形態	集団指導の中で
	3 給食の献立表を見て、「今日の給食は、パンと牛乳と です」と発表することができる。	指導時間	1時間+
		指導者	学級担任(TT)
学 習 内 容		他の短期目標との関連	
1 時間割調べ	<p>(1) 黒板にはってある「あさのかい」、「せいたん(生活単元学習)」、「こくご」、「さんすう」などの文字カードを確認する。 文字カードを選択できないときには同じ文字カードを示し、マッチングさせる。</p> <p>(2) 「1時間目は朝の会です」という教師の説明を聞いて、「あさのかい」の文字カードを選ぶ(以下、ランダムに「かえりのかい」まで説明)。 時間割はランダムに説明し、時間目を意識できるようにする。 混乱するときには、数字カードを示して補助する。</p> <p>(3) 今日の学習について、1時間目から5時間目までみんなに発表する。 発表の仕方は、パターン化する。それぞれの学習内容は、絵カードや写真カードも使って教師が説明し、学習に見通しがもてるようにする。</p>	<p>生活面: スケジュールの理解-B ・ 月、週、1日のスケジュールに沿って見通しをもって参加する。</p> <p>学習面: ことば-A, B ・ 主述のある文章を構成できる。 ・ 自分の気持ちを一語文以上のことばで相手に伝える。</p>	
2 カレンダー調べ	<p>(1) カレンダーを手掛かりにして「月」、「日」、「曜日」の、の数字や漢字カードを選ぶ。</p> <p>(2) 選んだカードを黒板の日付の所にはる。</p> <p>(3) 日付を見ながら、今日は「月日、曜日です」と発表する。</p>	<p>学習面: ことば-A, かず-C ・ カレンダーを見て、今日の日付けを言う。 ・ 主述のある文章を構成できる。</p>	
3 給食調べ	<p>(1) マーカーで印が付いている献立表を見る。 昨日の献立の所はマーカーでチェックし、今日の献立表の位置が分かりやすいようにする。</p> <p>(2) 日の献立表を調べることを確認する。 カレンダー調べの結果も手掛かりにするように支援する。</p> <p>(3) 主食は、パンかごはんかを確認する(「今日は、パンだよ」)。</p> <p>(4) おかずは、何かを確認する(「今日は、カレーとサラダだよ」)。</p> <p>(5) 「パン」、「カレー」、「サラダ」、「牛乳」の写真カードをボックスから探し、黒板にはる。 写真カードは選びやすいように数枚にしておく。</p> <p>(6) 今日の給食について発表する。 発表の仕方はパターン化する。</p>	<p>学習面: ことば-A, かず-C ・ カレンダーを見て、今日の日付けを言う。 ・ 主述のある文章を構成できる。</p> <p>生活面: スケジュールの理解-B ・ 月、週、1日のスケジュールに沿って見通しをもって参加する。</p>	
評価	<p>1 時間割調べでは文字カードの選択は正確にできたが、「時間目」について確実ではなかった。</p> <p>2 日めくりカレンダーを見て、カードを選ぶことができた。</p> <p>3 給食の写真カードは迷わずに選べ、教師の支援を受けてみんなの前で発表することができた。</p>		

(5) 指導の実際（生活単元学習 単元名「宿泊学習」から）

ア 題材名 「サラダを作ろう」

イ 目標

(ア) 全体目標

- ・ サラダ作りの中で自分の役割が分かり，みんなで力を合わせて調理することができる。

(イ) 個人目標（対象児のみ記載）

- ・ 写真カード等を手掛かりに調理活動に見通しをもって参加し，分担した役割を遂行できる。

ウ 支援に当たって（対象児のみ記載）

- ・ 宿泊学習に対する期待の高まりが見られてきていることから，日時，行き先を学習計画表で確認させるようにする。
- ・ 写真カードの内容は，合わせて一致させることで確認するとともに，サブTの支援を受けて二語文，三語文で説明できるように支援する。
- ・ 調理活動における支援は控え，本児の力でレタスを調理できるようにする。

エ 本時の実際

	主な学習活動・内容	本児の学習活動別のねらい	短期目標との関連
導入 5分	1 はじめのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ サブTの支援を受けて「始めます」と大きな声であいさつする。 ・ 学習計画表を手掛かりにして，期日や行き先などを発表する（カレンダーにマジックでチェックする）。 ・ 写真カードを見て，「キュウリ」，「トマト」，「レタス」，「ハム」などの材料の名前を答えることができる。 ・ 「野菜サラダを作ろう」とサブTの支援を受けて言う。 	社会性：コミュニケーション・C 生活面：スケジュールの理解・B 学習面：かず・C
	2 本時の学習について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> みんなで力を合わせて，野菜サラダを作ろう </div>		社会性：コミュニケーション・C 生活面：スケジュールの理解・B 生活面：スケジュールの理解・B
展開 30分	3 サラダ作りの流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動に見通しをもつ。 ・ 流れを示した写真カードと同じカードをマッチングする。 ・ 自分が分担するレタスの調理過程を知る。「きれいに洗う」「細かくちぎる」「水を切る」 ・ 大きくちぎったレタスに気付き，さらに小さくちぎる。 ・ みんなで分担した材料をマヨネーズであえる。 	社会性：集団参加・D
	4 分担して調理活動を進める。		社会性：コミュニケーション・C
5分	5 グループで分けて作った材料を合わせる。		
5分	6 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 味見をした感想（「おいしいです」等）を自分で言える。 	

オ 評価

< 子ども > (: 達成できた : おおむね達成できた : もう少し努力が必要である : 達成できなかった)

(ア) 自分の分担作業を言葉や写真カード等で確認できたか。()

(イ) 調理活動の流れと，それを分担して作業することが理解できたか。()

(ウ) 自分の分担した役割が分かり，最後まで遂行できたか。()

< 指導者 > (: 達成できた : おおむね達成できた : もう少し努力が必要である : 達成できなかった)

(ア) 発問等の子どもたちへの支援ができたか。()

(イ) 実態に合った教材・教具等の準備ができたか。()

(ウ) 短期目標と関連付けられたか。()

2 肢体不自由養護学校での実践例

重複学級に在籍するB児 小学部2年 女
入学前，精神運動発達遅滞と診断される。

(1) 個別の指導計画

< 実態表 >

氏名	女	生年月日	平成 年 月 日 () 歳
障害名	精神運動発達遅滞	手帳等	身体障害者手帳・療育手帳 1種1級 A1
障害に伴う状態像	・ 右側弯のため一人座位禁止，姿勢保持いす20分許可 ・ 肘立て位での楽器遊びや肘立てずりばいが可能	記入日	平成 年 月 日
諸検査	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査 移動運動(0:7~0:8) 手の運動(0:8~0:9) 基本的習慣(1:6~1:9) 対人関係(0:8~0:11) 発語(0:9~0:10) 言語理解(0:10~0:11) MEPA - 姿勢・移動・コミュニケーション(0:7~0:9) 操作(0:10~1:0)		
全体特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔が多く，人とのかわりを喜ぶ。 ・ 不快なときは大声で泣く。要求は発声や引っ張りや噛みつきなどの行動で示す。 ・ 手に触れた物は口に入れ，噛んで感触を楽しむ。 ・ 音や光，ガサガサと鳴る物，ビニールなどが大好きである。 ・ 目的物に向かって10mほど肘立てずりばいで移動することができる。 		

健康面	生活面	食事：普通食 睡眠：生活リズムは安定 排せつ：1日1~2回程度	
	健康面	体温：36.0~36.5度 呼吸：20回/分(ぜん鳴等はない) 脈拍：70~75回/分 アレルギー：特に無し 顔色：良好	
	発作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1~2回位の割合で，季節の変わり目は3~4回と増える。 ・ おう吐のような声，動きから始まる。発作時はチアノーゼが出て，全身引きつける。発作が終わると寝てしまう。小さな痙攣から大きな痙攣に変わる。重積発作に注意が必要である。 ・ 抗てんかん剤を朝夕1回服用する。<主治医： 病院 医師> 	
	訓練等	・ 病院で月1~2回ボイタ法を実施	
感覚・運動面	感覚	視覚	興味のある事物への注視・追視することができる。
		聴覚	異常はなく，音源を定位することができる。
		触覚	やや過敏な面がある。興味のある物を進んで触察する。
	運動	姿勢	肘立て位の姿勢は自分でとる。座位は自力では取れない。
		移動	寝返り及びずりばいによる移動が可能である。
		その他	興味のあるものには手を伸ばして握ることができる。
日常生活面	数量	・ 数概念，色・形などの弁別は未発達	
	言語	・ 感情表出は豊かであり，快・不快などは表情や動きの変化でとらえることができる。要求がある場合には，発声や引っ張り，かじり，笑顔などで知らせる。	
	社会性	・ 人やものとのかわりを好み，自分からかわることも多い。しかし，興味や関心のないものへはかわらない。	
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抱っこして揺らしてもらったり，保護者や教師と一対一で遊んだりするときが，一番情緒が安定してよく笑う(上下・左右・回転系の遊具や抱っこが好きである)。 ・ 噛んで楽しむことや，肘立て位で「いたずらBOX」やキーボードなどで遊ぶことが大好きである。散歩や水遊びでは，両手を広げ大きな声を出して喜ぶ。 	

保護者の願い	健康面：食事の量を増やす。スプーンやフォークを一人で使って食べられるようになってほしい。 生活面：排せつ時にサインにより意思表示できるようになり，学校卒業までにおむつが不要になってほしい。 いろいろな事物への興味を広げ，周りの人とコミュニケーションがとれるようになってほしい。 学習面：有意義な学校生活を送る中で，いろいろな経験を重ねて力を付けて充実した毎日を送ってほしい。 進路面：中学部，高等部への進学を希望する。卒業後も病棟での生活が続くことになるため，このまま健康で，毎日楽しく過ごしてほしい。
--------	---

< 年間指導目標・指導内容・評価 >

氏名(性別)		(女)			
記入年月日		平成 年 月 日	記入者		
年間指導目標	日常生活の指導	・ 衣服の着脱時に、補助者に協力する動きを起こしたり、身体各部の緊張を緩めたりすることができる。			
	生活単元学習	・ 季節の草花や果物などを感覚的に楽しんだり、行事の楽しい雰囲気を味わったりすることができる。			
	音楽	・ 自分でキーボード等の楽器を鳴らしたり、音楽を聴いたりして、音やリズムの変化を楽しむことができる。			
	体育	・ 目的物に向かって意図的に移動したり、物をつかんだりできる。			
	自立活動	・ 快や不快の感情表出が豊かになるとともに、「はい、いいえ」などの簡単な意思を特定の動きで表出することができる。			
	特別活動	・ 集団の活動の中で、教師や友達の声や動きに注意を向け、にぎやかな雰囲気を楽しむことができる。			
		指導内容	指導の手だて	学習の様子	評価
領域・生活科の生活単元学習の指導領域の指導	日常・生活科の生活単元学習の指導領域の指導	・ 皮膚の鍛錬(血行促進マッサージ)	・ 健康を保持するために乾布摩擦やマッサージで皮膚を丈夫にする。	・ 腕や足、腹、背中をマッサージすると声を上げて喜んだ。	
		・ 排せつ(定時排尿を含む)	・ 排尿時間の管理や言葉掛け、対応は家庭と同じ方法にする。	・ 時間以外のサインが見られつつある。	
		・ 食事の安定	・ 意欲や態度に応じて場や時間も変えて、学部や学校行事などへ参加し、季節感や集団活動の雰囲気を味わう。	・ 児童生徒総会で泣き出したので外へ出させることで気持ち	
特別活動の指導	特別活動の指導	・ 学校行事に関する学習	・ 学部や学校行事などへ参加し、季節感や集団活動の雰囲気を味わう。	・ 児童生徒総会で泣き出したので外へ出させることで気持ち	
		・ 季節単元に関する学習	・ 製作や鑑賞などで他児や教師とかかわ	・ 「焼き芋」の歌で声を出して笑った。	
		・ 交流学習に関する学習	・ 場の雰囲気やかかわりを楽しむ。		
自立活動の指導	自立活動の指導	・ 季節に合わせた歌唱や合奏身体表現、鑑賞などの学習	・ 自由に身体を動かし、自由に楽器を鳴らすことができる。		
		・ 遊具遊びや体操、ゲームなどで、集団の中で体を動かす学習	・ 場の雰囲気やかかわりを楽しむ。	・ 「トランポリンすもう」で揺れに体を合わせ、勝つことが	
		・ 学部行事に関する学習	・ 体を動かして、いろいろな活動を楽しむ。	・ 交流学習で他校の児童と一緒に活動することができた。	
特別活動の指導	特別活動の指導	・ 学校行事に関する学習	・ 年間指導計画に基づき、いろいろな遊びを設定する。自発的な意思表示や動きを引き出し、かかわりを広げる。		
		・ 自立	・ 風や水、粉、豆腐などの素材の感触を全身で受け、自発的な意思表示や動きを	・ こんにやくあそびやコーンスターチな	
		・ いろいろな素材で触感覚を楽しむ学習			
担任所見	担任所見	・ いろいろな活動の中で、自分からの意思表示を多く出すようになった。また、教師の読みとりで本児からの意思表示に応じた対応ができるようになった。			
		・ 発声や引っ張り、囁みつきなどのサインで食事や排せつの有無を知らせる。			

： 達成できた : おおむね達成できた : もう少し努力が必要である : 達成できなかった

(2) 自立活動の個別の指導計画 学習形態は個別指導が中心になる。活動内容により集団での活動も行う。
ア 年間計画(「うごきあそび」の一部を示す)

名称	うごきあそび	時数	1学期：20時間	2学期：26時間	3学期：18時間
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人の働き掛けに対して、表情や動き(身振りサイン)を使い、快・不快だけでなく簡単な要求などの意思表出ができる。 ・ 自分で目的物まで移動し、おもちゃや遊具などを触ったり、指で動かしたりして遊ぶことができる。 ・ 抱っこや遊具の揺れ刺激、音楽などを楽しみながら、身体各部の緊張を緩めることができる。 				
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな活動で、もっと続けてほしいときは「教師の体や遊んでいる遊具をトントンとたたく」という身振り、また、止めてほしいときは、両手を広げる身振りで、意思表出できる。 ・ 教師の働き掛けを受けて、肘や膝を曲げ伸ばしたり、全身の筋緊張を自分で緩めたりできる。 ・ ずりばいや寝返りで移動し、自力で肘立て位をとって、好きなおもちゃを選んで遊ぶことができる。 				

イ 学期ごとの短期目標

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 肘立て位でウォーターマットを触り、声を出したり自発的に手足を動かしたりできる。 教師に抱っこされた揺れで、「楽しい」、「して」、「やめて」などの意思表示ができる。 セラピーボール上の揺れで全身の力を抜いたり、頭部を上げたりできる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 肘立て位のまま、両手で「いたずらBOX」を操作し遊ぶことができる。 教師の膝に支座位のまま座り、左右のバランスをとることができる。 セラピーボール上の揺れで全身の力を抜いたり、指を床につけたりできる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 肘立て位のまま、好きなおもちゃを選んで遊ぶことができる。 肘立て位でのカード遊びで、「楽しい」、「して」、「やめて」などの意思表示ができる。 セラピーボール上の揺れで全身の力を抜いたり、指や足を床につけたりできる。

ウ 学期ごとの活動内容と支援の手だて、子どもの変容

	活動内容	支援の手だて	子どもの変容
1 学期	自由あそび ゆれゆれあそび 全身伸ばし	<ul style="list-style-type: none"> ウォーターマットをたたいて音を出したり揺らしたりして意欲を引き付ける。 揺れに変化をつけたり、揺れを止めたりして、本児の自発的な動きを読み取る。 全身の力の出入に応じて揺れを変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーターマットの中の水の動きに声をあげたり噛んだりして、喜んでかかわった。 揺れが変化するたびに、声を出したり、教師の腕を引っ張ったりした。 力が抜けたときは目を閉じて揺れを受け入れた。
2 学期	いたずらBOXあそび 全身伸ばし バランスあそび	<ul style="list-style-type: none"> ボタンを押したり回したり、ふたの開け閉めなどの動作で意欲を高める。 全身に力を入れる場合は緩やかな揺れで、後ろから腰を補助し安心感を出す。 本児の臀部を教師の股で固定し、上体のバランスに合わせてカードを見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 喜んで左指でボタンを押したり回したり飛び出す動物の開閉をしたりした。 揺れが緩やかになると頭を持ち上げ、指が床に触れるたびに声をあげた。 上体が左右に傾くとカードを見ながら頭を動かして姿勢を直し、笑顔になった。
3 学期	おもちゃあそび 全身伸ばし カードあそび	<ul style="list-style-type: none"> 音を出して見せた後、移動しやすく視界に入る位置に好きなおもちゃを置く。 指や足底を床につけるときは揺れを止め、床につける部位を触って知らせる。 カードの提示に変化をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 音や提示で興味をもったおもちゃのある場所に移動し、声をあげて活動した。 指や足底が床に触れるたび声を出し、揺れが止まると全身に力が入った。 声も出さず集中してカードを見ていた。

(3) 本時の計画 (14 / 20)

ア 単元名「うごきあそび」

イ 個人目標

授業全体	<ul style="list-style-type: none"> 教師からの呼名や言葉掛け、話、ウォーターマットやセラピーボールの提示などに、声を出して喜んだり手を出したり、教師の顔を見たりできる。 本児からの快(したい・楽しい)や不快(いや・疲れた)、要求(してほしい・止めて)、水が飲みたい、排せつしたいなどの意思表示を、発声や引っ張りなどの自発的な動きで表すことができる。
活動	<ul style="list-style-type: none"> 肘立て位で、ウォーターマットで自発的に手足を動かしたり、声を出して喜んだりすることができる。 教師に抱っこされた揺れで、快・不快・要求などの発声や引っ張りなどの意思表示ができる。 セラピーボール上での揺れ遊びの中で、全身の力を抜いて全身を伸ばすことができる。

ウ 教師の本児へのかかわりに対する目標

教師	<ul style="list-style-type: none"> 本児からの発声や自発的な動きに対して、共感的にかかわることができる。 場に応じた賞賛や言葉掛けで本児の意欲を高め、本児からの意思表示を多く引き出すかかわりができる。 周りの様子に気付くようにしたり、教師の話を聞けるような雰囲気をつくったりできる。
----	---

エ 支援に当たって

<ul style="list-style-type: none"> 三種類の活動のうち一種類は、10分間の個別指導を行う体制をつくる。同じ指導や言葉掛けができるように、形成的評価や日々の観察を綿密に行い、必要に応じてビデオ分析を行う。 写真カードや活動に合わせた曲を録音した30分テープを活用して、活動への見通しや活動の始めと終わりの意識付けを図る。 40分の授業の中で30分の活動がスムーズに流れるように、教師の目線や動きを考慮した場を設定し、活動内容に応じた支援方法を2名の教師で共通理解する。 登校時、保護者からその日の体調を聞き、体調に合わせて活動する。活動中の子どもからの動きを見落とさずに対応する。活動中の転倒や骨折などがないように、教師の姿勢保持の仕方や子どもから表情を読み取る。 言葉掛けをする前は必ず名前を呼び、教師を見た後、言葉掛けをし、子どもの意思表示を確認する。

オ 本時の実際（ : 望ましい姿, : 手だてを必要とする姿, : に対する教師の手だて）

過程	形態	主な学習活動	姿勢	予想される本児の様子	活動・かかわり上での手だて
導入 5分	一斉	1 はじめのあいさつをする。 かなづちとんとん	支 座 位	笑顔になり「ウィー」と声を出したり笑ったりする。 T1の手を握ったり, T1と一緒に拍手したりする。 腰を引き, のけぞって嫌がる。T1や自分の髪を引っ張ったり, 泣きそうになる。	「楽しみだね」等の言葉を掛けながら本児の気持ちを高める。 本児の動きに合わせて, 歌や動作はゆっくりと行う。 姿勢を取り直す。 抱っこし揺らした後で, 笑顔になったら再度始める。
		2 学習内容を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">うごきあそびをしよう</div>	肘 立 て 位	自分の写真を見たり, 手を伸ばして取るうとしたりする。 写真を見ず, 他の方を見たり移動したりする。	「楽しそうだね」と本児に話し掛け, 注意を引き付ける。 ウォーターマットを提示し, 興味や意欲を高める。
展開 30分	合同	3 うごきあそびをする。 (1) ウォーターマットで遊ぶ。	肘 立 て 位	ウォーターマットの提示で歓声を上げたり, ずりばいで移動したりする。 ウォーターマットをたたいたり, つまんだり, 噛んだりして喜んで遊ぶ。 ほかのおもちゃや窓へ移動し, それで遊び始める。	本児の自発的な動きや発声に言葉を掛け, 楽しい雰囲気をつくる。 ウォーターマットを揺らしたりたたいて音を出したりして, 注意を引き付ける。 しばらく様子を観察した後, 呼名し, 再度, 提示する。
	個別	(2) ゆらゆら遊びをする。	抱 っ こ	左右上下の揺れに声を出し, 髪を引っ張ったりして喜ぶ。 揺れを止めると要求の発声やT1へかかわりがみられる。 笑顔が無くなり, 髪を引っ張り嫌がる。	本児の快表情や意思表示を引き出すため, 揺れに変化を付ける。 要求のサインが出たら, 賞賛する。 膝に乗せ, 向かい合って本児の意思を読み取る。
	合同	(3) セラピーボールで遊ぶ。	伏 臥 位 仰 臥 位	上下の揺れを全身で受け, 大声で笑ったり, ボールをたたいたり, 床を触ったりする。 笑顔が無くなり, 手足の動きが止まる。	本児の快表情や意思表示を引き出すため, 揺れに変化を付ける。 途中で休息を入れる。 ボールから降ろし, 向かい合って本児の意思を読み取る。
終末 5分	一斉	4 本時のまとめをする。	支 座 位	笑顔になり, 声を出したり両手で拍手したりする。 姿勢を崩したり, 泣きそうになったりする。	楽しさを共有できた言葉掛けや自発的な発声や動きに意味付けする。発表後, 賞賛する。 疲れからくる動きなので, 笑顔が出るまで抱っこする。
		5 次時の予告を聞く。		話をする T1の顔を見たり, 活動の様子を聞いたりする。 姿勢を崩したり, 泣きそうになったりする。	視線が合ったら笑顔で返し, 話をした後, 頭をなで賞賛する。 膝に抱っこして緩やかな揺れで気分を変える。
		6 おわりのあいさつをする。 手はおひざ		笑顔になり声を出したり, 両手で拍手したりする。 姿勢を崩して声を出したり, 髪を引っ張ったりして嫌がる。	歌や動作はゆっくりと本児の動きに合わせて。 一番好きな肘立て位にし, 歌に合わせて背中を軽くさする。

3 特殊学級での実践例

知的障害特殊学級に在籍するC児 小学校2年 男

(1) 個別の指導計画

児童の実態	基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事は、部分的に介助が必要である。 ・ 排尿は自分でできるが、排便後の処理については介助が必要である。 ・ 衣服の着脱では、ボタンの付け外しに時間が掛かる。 ・ 言葉掛けをすれば、簡単な片付けは一人でできる。 ・ 手洗い、汗ふきなどは声掛けてできる。 	
	行動面 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分より年下の子もとの遊びを好む。 ・ 集団活動場面では、集団から外れて一人で活動することが多い。 ・ 他人への関心が低く、社会性が未成熟である。 ・ 多動傾向にある。 	
	学習面	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本に興味を示し、読み聞かせを喜ぶ。文字に対して抵抗があるが、「何て書いてあるの」、「僕の名前の字と同じだね」などと働き掛けると、平仮名を見て言葉を多く発する。
		算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1から10までの数を数えるが、大小関係や数字の順序性などの理解は不十分である。 ・ 図形の認識は大まかにできる。
		他の教科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空想したり、想像したりすることが好きで、伸び伸びとした線で自由な絵を描く。 ・ ブロック遊びでは、説明書を見ながら複雑な構造の作品を作ったり、色の対比を考えながら楽しい作品を作ったりする。
	健康面 運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行、筆記などの基本的な動作に支障はなく、大きな疾病も見られない。 ・ 階段の昇降に時間が掛かる。一段ずつ両足をそろえて昇降する。 ・ 滑り台やブランコを怖がり、自分から乗ろうとしない。 ・ すべての動作がゆっくりである。 	
発達検査等 の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察で実態をとらえている。今後、適切な標準的な発達検査等の実施を予定している。 		
他機関からの 情報	<p>センターでの発達相談から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4歳程度の発達段階にある。 ・ 視覚情報処理が得意なので、小学校では言葉の指示だけでなく、視覚的な情報を添えながら本児にかかわっていくなど個別的な支援が望ましい。 		
本人・保護 者の 願 い	<p>本人の願い</p> <p>本児は同学年の友達と一緒に学習したり、遊んだりすることに興味を示し始めている。特に交流学級での学習においては、笑顔も多く見られるようになってきている。教科の学習にも意欲的に参加するようになり、学校生活を楽しく過ごしたいという気持ち強い。</p> <p>保護者の願い</p> <p>集団生活の中で友達とかかわりながら伸び伸び生活してほしい。学習面はゆっくりでいいので、確実に身に付けてほしい。</p>		
担任の願 い	<p>生活面： 集団生活を送る中で、他の人々とのかわり方や自分の思いを伝えることの大切さ、楽しさを学ぶことができるようにしたい。</p> <p>学習面： 読んだり、書いたり、数を数えたりする活動を通して、基本的な内容が定着できるようにしたい。</p> <p>保健面： 食事や排せつの方法を知らせ、清潔に気を付けることができるようにしたい。</p>		

長期目標 ：重点 目標	学 習 面	簡単な文章を読んだり，書いたりすることができる。 100までの数を数えたり，簡単な計算をしたりすることができる。	
	生 活 面	基本的な生活習慣を身に付け，自分でできることは意欲的に取り組める。 学校生活に必要なルールについて知り，規則正しい生活を送ることができる。	
	社 会 性 対人関係	友達の動きを見たり真似したりして，集団を意識した行動ができる。 会話を中心としたコミュニケーションをとることができる。	
	短 期 目 標	支 援 の 手 だ て	子 ども の 変 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尋ねられたことに答えるなどして，担任と会話をすることができる。 ・ かくれんぼや鬼ごっこなど，知っている遊びを担任を媒介にして友達と一緒にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問を「はい」，「いいえ」で答えられるものに焦点化し，確実な返答や意思表示の定着を図った。 ・ 得意な遊びを集団遊びに取り上げ，担任が援助する中で，集団での活動の楽しさを味わえるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任からの呼び掛けに対し，無反応ということがほとんどなくなり，振り向いて返事ができるようになった。 ・ 知っている遊びであれば，友達からの誘い掛けにのって参加できるようになり，同時に，その遊びについて担任に質問をするようになった。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任以外の教師や友達からの質問に答える形で会話をすることができる。 ・ 担任を媒介にして，円形ドッジボール等のルールのある遊びに参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任以外の教師へのお使い活動の場面を設定し，用件を伝えた後，「はい」，「いいえ」での質問に答えるようにした。 ・ 担任が絵カードを用いて簡単なルールを伝えながら，一緒に活動する中でルールの理解を図り，友達と一緒に活動することの楽しさを味わえるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任以外の教師とのアイコンタクトが取れるようになり，簡単な質問への「はい」，「いいえ」の返答や付随する内容の表出が確実にになった。 ・ 集団の遊び場面での表情の変化が豊かになり，勝ち負けによる喜びや残念な気持ちを出せるようになった。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が尋ねていることの意図を理解して「はい」，「いいえ」以外の言葉で返答しながら会話を進めることができる。 ・ 遊び以外の集団活動の場でも，活動の流れを理解して，最後まで集団の中で活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」，「どこで」，「だれと」を引き出すための質問を設定し，本児の表出を繰り返しながら，できるだけ会話が持続するようにした。 ・ 卒業式練習などの場面で，会順（活動）の流れを絵カードで表し，見通しをもちやすくするとともに，周囲のしていることに注意を向けさせる言葉掛けをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他人と会話することの楽しさを味わえるようになり，自分から話し掛ける場面が飛躍的に増えた。「どこで」，「だれと」の問いへの返答が，確実にになった。 ・ 活動の見通しをもてることで，集団から離れることがほとんどなくなった。集会活動の意味理解が図られ，卒業式の「寂しくなる」，「おめでとう」といった心情の理解ができた。
今後に向けての引継事項	<p>自分のやりたいことに夢中になって，周りの様子に関心が向いていないことも多いが，友達の様子や学習の目当てなどを考えて行動するようになってきている。学習面においては，読書が好きで，想像力や語い力などを身に付けてきており，今後，幅広い学習への拡大が期待される。</p> <p>基本的な生活習慣は，自分でできるようになりたいという意欲が育ってきており，食事のマナーや排せつについて継続した指導が必要である。</p>		

(2) 各単元における「個別の指導計画」

ア 単元の全体計画

教科	国語	単元名	「あなたはだあれ」
目標	<p>身近な動物の絵に興味をもって見たり，話を聞いたりすることができる。</p> <p>動物の動作や鳴き声などを模倣できる。</p> <p>話の大まかな筋に親しむことで，やり取りの繰り返しの楽しさを味わうことができる。</p>		
評価規準	<p>シルエットで示される動物について考える中で，楽しく話したり聞いたりしようとしている。</p> <p>ヒントを出したり聞いたりして，友達や教師と対話している。</p> <p>大事なことを落とさないように興味をもって聞き，動物の特徴を押さえる質問をしている。</p>		
支援方法	<p>ゲーム的な要素を取り入れ，楽しみながら学習が展開できるようにする。</p> <p>パターン化された質問・応答を繰り返すことで，やり取りの楽しさを感じ取れるようにする。</p>		

イ 指導計画（全6時間）

週	時	全体の学習活動	本児への支援の手だて	本児の評価規準
つかむ・見通す	2	<p>前単元「よくきいてあてよう」で，楽しかったことやおもしろかったことを思い出し，学習を振り返る。</p> <p>教室にある物に対し「あなたはだあれ」と質問し，対象物になった人が「私は です」と答えるゲームの決まりを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前月に学習したことを振り返られるように，黒板や学習・作品コーナーに学習内容の掲示をしておく。それを用いて質問への答えを引き出す。 ゲームの決まりを絵で表したものを準備し，自分と相手とのやり取りの流れがより具体的に分かるようにする。 	<p>前単元で学習したことで楽しかったことやおもしろかったことを先生や友達からの質問を受ける形で発表することができる。</p>
考える	2	<p>「あなたはだあれ」ゲームを動物で学習することを知る。</p> <p>どんな動物を知っているかを発表し，図鑑等で調べる。</p> <p>「あなたはだあれ（動物）」ゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何を用いて「あなたはだあれ」ゲームをやりたいかを，まず本児に尋ねる。 最初は絵カードをポインティングする活動から入り，その後，個々のネーミングの活動に入る。 シルエットで動物を判断できないときには，本児からの求めに応じて写真等のヒントを提示する。 	<p>知っていることをはっきりと相手に伝えることができる。</p>
深める	1	<p>「あなたはだあれ」ゲームを人物で学習することを知る。</p> <p>「あなたはだあれ（家族や身近な人々）」ゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人々の特徴を具体的に想起できるように，写真カードや絵カードを用意し，本児が持っている知識を単語レベルで引き出せるような質問をする。 友達に質問する事項を思い付かないときのために文字カードを用意し，それを読む手続きで進める。 	<p>友達の発表を聞いて，「そうです」，「ちがいます」などの受け答えをすることができる。</p>
まとめる・生かす	1	<p>「あなたはだあれ」ゲームを振り返り，楽しかったことを発表する。</p> <p>学習したことを大判用紙にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の写真や描いた絵 鳴き声カード 学習に出てきた言葉カード 感想文等 	<ul style="list-style-type: none"> 言えるようになった動物や身近な人々の特徴を想起させ，本児にフィードバックすることで学習の成果を十分に味わえるようにする。 大判用紙にまとめる際は，指示をできるだけ控え，本児の発想を大切に自由を描けるようにする。文字を書くときは，学習で用いた教材をモデルにして模写する方法で進める。 	<p>学習したことの中からおもしろかったことや楽しかったことを二語文以上で話し，書くことができる。</p>

(3) 本時の計画 (4 / 6)

ア 単元名 「あなたはだあれ」

イ 目 標

全体目標	「あなたはだあれ」という問い掛けに進んで答え、言葉のやり取りを楽しむことができる。
個人目標	出題者と回答者の役割を理解し、「あなたはだあれ」という問い掛けに確実に答えることができる。 動物の鳴き声や形態の特徴をとらえて、模倣遊びをすることができる。

ウ 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、前時からの関連をとらえたり学習意欲を高めたりするために、動物が登場する絵本や歌を準備し、動物を題材にして学習を展開するというイメージをもてるようにする。

考える過程では、シルエットになった動物は何かを友達や先生と考える場面を設定する。つぶやきを大切に取り上げ、みんなの前で発表できるように励ましていく。

深める過程では、なぜそう思ったのか(例：象だと思ったわけ)を「鼻が・・・」、「耳が・・・」といったヒントを提示して考えさせ、文章を完成させる形で発表できるようにする。

まとめる・生かす過程では、上手に言えたことを子どもに返し、成就感をもてるようにするとともに、次時の学習ではもっとうまく言えるようになりたいという意欲を育てる。

エ 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	本児への支援の手だて	評価規準
つかむ・見通す	1 動物が登場する絵本の読み聞かせを聞いたり歌を歌ったりする。	8 (分)	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の動物の一部を見たり、歌の前奏部分を聞いたりして、何の動物かを当てながら進める。 本時の「あなたはだあれ」のゲームは何を題材にして進めるのかを質問し、本児から「動物」という言葉を引き出す。 	<p>やり取りの流れを示した図を見ながら、出題と回答の交代をリハーサルできる。</p> <p>「あなたはだあれ」の問い掛けに、形態の特徴をとらえながら自分から答えることができる。</p> <p>動物の特徴を言葉に出しながら、鳴き声も交えて模倣することができる。</p>
	2 本時の目当てを確認する。 「あなたはだあれ」のゲームで、たくさんの動物を当てよう。	2		
考える	3 「あなたはだあれ」のゲームについてやり方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> シルエットについて 動物の名前が分かったらしっかりと挙手して答えること 分からないときは質問してもいいこと 出題と回答を交代で行うこと 	5	<ul style="list-style-type: none"> 前時で取り組んだ動物のネーミングを再度行いながら、出題と回答の交代を押さえていく。 言葉だけでは十分理解できない場合、ゲームの決まりを絵で表したものを準備し、自分と相手とのやり取りの流れがより具体的に分かるようにする。 	
	4 ゲームをする。 あなたはだあれ? → ワンワン 犬さん? ← → そうです <ul style="list-style-type: none"> 質問したり答えたりする。 「はいそうです」と言って姿を見せる。 	15	<ul style="list-style-type: none"> シルエットのヒントで「あなたはだあれ」の問い掛けにうまく答えられないときは、その動物の形態の特徴に着目する言葉掛けを行う。単に動物を当てるだけでなく、「首が長いから」、「鼻が長いから」といった特徴を言葉で引き出しながら形態や鳴き声の模倣にも取り組めるようにする。 	
まとめる・生かす	5 楽しかったことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 動物がたくさんいたよ。 ライオンもいたよ。 次は何をするのかな。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 本児が自分で当てた動物を発表した後に、そう判断した理由を再度教師が全体に紹介し、きちんと理由を付けて当てられたことの成就感をもてるようにする。 	
生かす	6 次時の学習について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 後片付けをする。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 家族の写真を見せ、次時はだれを題材にしてこのゲームをやりたいかを本児に聞いてみる。 	

4 通級指導教室での実践例

通常の学級に在籍するD児（聴覚障害） 小学校2年 女

(1) 言語障害通級指導教室における個別の指導計画

児童名	小学校2年	自校・ <u>他校</u>	週1回2時間通級	H 年4月指導開始	
通級理由	聴覚に障害があり，学習上及びコミュニケーション上のハンディキャップが大きい。				
児童の 状態 像	言語・学習面		生活・行動面		
	<p>聴覚活用 日常生活によく使うことばや指示などは口形を見ずに理解できることが多い。</p> <p>教科学習 国語・算数等においては，ほぼ学年相応の学力を身に付けている。予習を中心とした家庭学習の習慣が身に付いている。</p>		<p>コミュニケーション 特定の友達には積極的に話し掛けるが，他の級友や担任以外の職員とのコミュニケーションには消極的である。会話中に話がうまく伝わらなかったり，十分に聞き取れない部分があったりしても，自ら聞き返すことが少なく，あいまいに済ませてしまうことがある。</p>		
諸検査等の結果	<p>医学的診断：高度感音性難聴</p> <p>障害者手帳：1種3級</p> <p>聴力検査結果（平成 年4月実施）</p> <p>裸耳 右90dB() 左95dB(×)</p> <p>装用 右45dB() 左48dB()</p> <p>使用補聴器（社）</p> <p>絵画語い発達検査結果</p> <p>CA：7歳8か月 VA：6歳4か月</p>				
本人・保護者の願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚の活用能力を更に高めたい。 ・ 積極的に授業に参加したり，コミュニケーションをとったりしてほしい。 				
在籍学級担任の願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 級友と積極的にコミュニケーションをしてほしい。 ・ 分からないことを放っておかずに，聞き返す姿勢を身に付けてほしい。 				
通級指導における指導課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己音声の弁別能力を高めて，明りょうな発音を維持する。 ・ 筆談などの補助手段の活用を促し，コミュニケーション意欲を高める。 				
自立活動の内容	2(2)，2(4)，3(1)，3(2)，5(1)，5(2)，5(3)，5(4)，5(5)				

期 間	指 導 目 標 (指 導 の 重 点)	
長期目標 (年 間)	<p>聴覚だけでは情報を得にくいことを知り，必要に応じて身振りや筆談などの補助手段を使用する姿勢を身に付ける。</p> <p>自己音声の中で，母音，有声子音を弁別することができる。</p>	
短期目標 (1 学期)	<p>聴覚障害について知り，どんな時に困るか，また，どうすれば正しく情報を得られるかが分かる。</p> <p>他者音声の母音を確実に弁別することができる。</p>	
短期目標 (2 学期)	<p>相手の話が分からなかったときに，「もう一回言って」と聞き返すことができる。</p> <p>自己音声の母音，他者音声の母音・有声子音を確実に弁別することができる。</p>	
短期目標 (3 学期)	<p>同学年の友達の間で話題になっていることに興味をもち，関連する語いを適切に使うことができる。</p> <p>自己音声の母音を100%，有声子音を60%以上弁別することができる。</p>	
期 間	児童への支援	在籍学級担任・保護者への支援
1 学期 予定時間数 (16) 実際時間数 (14)	<p>通級指導担当者とのレポートを形成し，自由に何でも話せる人間関係をつくる。</p> <p>聴覚障害について理解し，聞こえにくいことが自分にどのような不利益をもたらすか，生活経験に照らしながら考えられるようにする。</p> <p>現在の発音の状態を把握し，誤発音の矯正を進めるとともに，母音の弁別力を高める。</p>	<p>在籍学級でのコミュニケーションの様子を観察してもらい，本児がよく理解していない場面を見かけたら，相手にどう聞き返したらよいか，モデルを示していただく。</p> <p>聴覚障害児への指導方法や配慮事項などの情報提供に努め，保護者会等における理解・啓発を支援する。</p>
	目標の達成状況・評価	
	<p>自分が困っている具体的場面において，望ましい行動を理解しているが，実際の行動には移せていない。</p> <p>他者音声の母音の弁別は確実にできた。</p>	
2 学期		
3 学期		

(2) 1学期の指導計画(全14時間)

	具体的な活動内容	支援のポイント	児童の変容・評価
第1回	<ul style="list-style-type: none"> フリートークやゲームによる担当者とのレポート形成 相互に質問し合っの自己紹介ゲーム 	身振りや表情，文字などを用いて，本児の話が正確に伝わっていることを本児に知らせるようにする。発音状態も観察する。	新年度から担当者が変わったため緊張気味であったが，終わりごろには笑顔で大きな声が出せるようになった。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> フリートークやゲームによる担当者とのレポート形成 聴力検査(裸耳・装用) 絵画語い発達検査 	前回の支援を継続する。フリートークの内容から本児の興味・関心を把握し，関連する話題を中心にするようにする。	前回より早くリラックスできるようになった。諸検査は集中して取り組むことができた。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器に関する話題(1) 担当者の音声による母音の弁別練習 発音検査 	母音の弁別練習は，口形をはっきりと見せて難易度を低くし，訓練的な内容にならないようにゲーム的な要素も取り入れる。	補聴器を装用している理由や大切さをよく理解していた。母音の弁別は，要領が分からずに困難であった。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器に関する話題(2) 補聴器の日常的メンテナンス 担当者の音声による母音の弁別練習 	確実に弁別できる母音については，さりげなく口形を見せないようにして，聴覚のみで可能かどうかを観察する。	補聴器の基本的な操作や掃除はほとんど一人でできた。母音の弁別は「え」，「い」以外は聴覚のみで可能であった。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> オーディオグラムに関する話題 身近なものの音(高低，強弱) 楽器，ベル，ガラス など 	オーディオグラムを拡大して，音を出したものの写真をはり付けていくようにする。あらかじめ音の高さと大きさを調べておく。	オーディオグラムが自分の聴力を表していることは理解できたが，グラフの見方についてはまだ困難である。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> オーディオグラムに関する話題 身近なものの音(聞こえにくい音) 担当者の音声による母音の弁別練習 下記(3)参照 	少し大きくすれば聞き取れるような音素材を用意し，聞くときの集中力を高めるようにする。	1回では聞き取りにくい音について，「もう1回」と言って集中して聞き直すことができた。

(3) 自立活動の学習指導案(6/14)

ア 題材名 「どんな音かな」

イ 目標

聞こえにくい音でも集中して聞いたり，音を大きくしたりすると聞こえることがあるということが分かる。

担当者の発した母音をほぼ間違いなく聞き分けることができる。

ウ 支援に当たって

これまで取り扱ったオーディオグラムの拡大図を基に，音の高低・大小を視覚的に知らせる。また，増幅器を使用して，必ず聞こえるように配慮する。

母音はややゆっくりめに読み，弁別が難しそうときは口形をヒントにする。

エ 本時の実際

時間	学習活動・内容	支援に当たっての留意点	準備物
(分) 7	1 はじめのあいさつをする。 2 フリートークをする。 先週から本日までに、学校であつたこと 現在の在籍学級での学習内容 前回と本日の学習内容 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつやフリートークを通して、発音の状態を確認する。目立った誤発音があれば、話の流れを妨げないように配慮しながら、正しい発音に誘導する。 ・ 友達との会話中に話題が分からなくなり、ストレスを感じていることが多いので、気持ちを受け止めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆談用メモ帳
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「あいうえお」ゲーム どんな音かな？</p> </div> <p>3 「あいうえお」ゲームをする。 (1) 箱から取り出したカードに書かれている3連の母音を読み、相手が文字カードを1枚ずつ正しく並べる。 (2) 担当者と本児が交互に10回行い、正解した母音の数の合計で勝敗を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「い」、「え」の弁別がまだ不十分であるので、3音節の中に必ず一つ入れるようにする。その他の音については、聴覚だけで弁別が可能であることから、口形がなるべく見えないように提示する。 「あおい」、「うえあ」、「えおう」など ・ 前時まで学習したオーディオグラムを見方を想起させる。 ・ 少し弱めに鳴らして、聞こえないことを実感させる。ただし、不快な表情が強い場合は、かすかに聞こえる程度まで音を大きくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラックボックス ・ 3音節文字カード ・ 母音単音カード
23	<p>4 聞こえにくい音を聞く。 (1) オーディオグラムを見方を復習する。 (2) 担当者が用意した音を聞く。 スプーンでコップをたたく音 壁掛け時計の秒針の音 メロディー電報の音 キーホルダーの鈴の音 (3) 聞こえなかった音は、どうすれば聞こえるか話し合う。 音を大きくすればいい 耳を澄ませばいい 聞こえるまで何度でも挑戦する (4) 考えた方法で再度音を聞く。 (5) どんな音だったかを写真カードに言葉で書き表し、オーディオグラムにはる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人が再度音を聞くことを要求してきた場合はできるだけ応じるようにする。 ・ 工夫をすれば、必ず聞こえることを知らせ、どのような方法があるかを一緒に考える。 ・ 考えた方法で音を聞かせ、聞こえることを実感できるようにする。 ・ 音の表現は本児なりの表現を認めるようにする。ただし、一般的な擬音表現も付け加えるようにする。 ・ 分かるまで聞こうとした態度を賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオグラムの拡大図 ・ スプーン ・ コップ ・ 壁掛け時計 ・ メロディ電報 ・ キーホルダー
5	<p>5 学習のまとめをする。 「聞こえにくくても工夫をすれば聞こえることがあるんだ」 6 次時の予告とおわりのあいさつをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ マイク ・ アンプ ・ 写真

オ 評価

- 子ども () 何とかして聞き取ろうとする工夫がみられたか。
() 3音節の母音を80%以上弁別することができたか。
指導者 () 教材の選択、音、口形の提示方法などは適切であったか。
() 子どもの意欲を引き出すような声掛けを行っていたか。

5 通常の学級での実践例

通常の学級に在籍するE児 小学校2年 男

入学前，児童相談所でADHDの疑いがあると指摘される。

(1) 個別の指導計画

1

学年・組	2年 組		児童名	
児童の 状態像	基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確実性はないが身辺処理等はほぼ自分でできる。身なりに注意が届かない面がある。 ・ あいさつ等は元気にできる。登下校は自分でできる。 ・ 道具の後片付けや整理が難しく，声掛け等が必要である。忘れ物が多い。 		
	行 動 性 社 会 性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達へのかかわりが衝動的であったり，表現がうまくできなかつたりしてトラブルになることがある。一方的に自分の都合で話し掛けることが多い。 ・ ルールは理解できるが，集団での遊びや活動への参加は消極的である。 		
	学 習 状 況	国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字の視写は丁寧にできるが，漢字の細かい部分で間違いがある。促音や拗音の使い方がまだ不十分である。文章の音読が苦手だが，話す能力は高い。 	
		算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二けたまでの繰り上がりのある加法はできるようになった。繰り下がりはまだ不十分である。文章題になると苦手意識が強く，取組が消極的になる。 	
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工では構成活動等，まだ未熟さが残るが意欲的に取り組む。音楽では嫌な音があるのか耳をふさぐことがあり，配慮を必要とする。 ・ 生活科では野外学習を好み，昆虫等には特に興味があり，知識も豊富である。 	
	健 康 面 運 動 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぜん息があるが学校には楽しく通学し，1年時もほとんど欠席はなかった。運動は身体の動きが全体的にぎこちなく，ボール運動等については苦手意識が強い。 		
発 達 検 査 そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ WISC - 知能検査 言語性IQ；99，動作性IQ；80，全検査IQ；89 ・ S-M社会生活能力検査 SA；6歳8か月 SQ；93（いずれも1年生2月実施） 			
他機関での 支 援 状 況 及 び 情 報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前，相談機関でADHDの傾向があると言われ，月に1回療育を受ける。就学段階では，通常学級での経過観察が適当との判断を受ける。1年生終了時，病院で受診し，言語面での能力のアンバランスさ，空間構成能力の弱さ，同時処理の課題の困難性と教育的支援の必要性を指摘される。 			
本人・保護 者 の 願 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人は学校に楽しく通学しているが，保護者は学習面での遅れ等を気にし始めている。また，友達とのトラブルも懸念しており，早く適切なかかわり方を身に付けてもらいたいと思っている。このまま通常の学級で継続して学習してもらいたい，状況によっては，国語や算数の個別の指導の機会も設けてもらいたい気持ちもある。 			
担任の願 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年時の担任からの引継ぎもあり，学習面，生活面において特別な教育的支援に配慮しながら，通常の学級で成長させたい。特に，ソーシャルスキルを身に付けることで，情緒的にも安定した中で学習を進めていきたい。そのためにも保護者や相談機関との情報交換に努め，連携を密にしたい。 			

長期目標 (は重点 目標)	学 習 面	一定時間、授業に集中し、苦手な教科に対しても自分から取り組むことができる。 ・ 文を読む力を身に付け、文章題にもあきらめずに積極的に取り組むことができる。
	生 活 面	忘れ物を少なくするとともに、身の回りの整理整頓ができる。 ・ 自分の係を理解し、最後までやり遂げることができる。
	社 会 性 対人関係	友達に対して、情緒のコントロールを図りながら場に応じたかかわりができる。 ・ 集団での活動に自分から参加し、学習や遊びに楽しく取り組むことができる。
短期目標	1 学 期	苦手意識のある国語でも、20分間は集中して授業に取り組むことができる。 自分の要求や希望を言葉で表現し、難しいときは教師の援助を求めることができる。 教師や仲のよい友達と一緒に学習やゲームなどの集団活動に参加することができる。 「持ってくるもの、整理整頓チェックリスト」を毎日忘れず記入することができる。
	2 学 期	
	3 学 期	
支援の内容 支援の方法	1 学 期	A 1時間の学習の流れや内容・時間を示し、見通しがもちやすいようにする。 B 本児が取り組みやすい目や行の大きさを考慮した用紙を準備する(国語,算数)。 C 学級の中で本児を賞賛する機会や活躍できる場を増やす。 D 本児とのかかわりについて他の児童にも協力を求める。 E 連絡帳と共にチェックリストを準備し、家庭でも一緒に確認をしてもらう。
	2 学 期	
	3 学 期	
子どもの 変容, 評 価	1 学 期	10分程度しか集中できない授業もあったが、全体的には意欲的に取り組める時間が長くなっており、本人なりの頑張りを見ることができた。 音読については、教師や友達の模倣ができつつあるが、まだ苦手意識が強く今後の課題である。要求等を言葉で表現することが多くなってきた。 友達に手が出てしまうことも時々あるが、その場で振り返ったり具体的なかかわり方を話し合ったりすることで、全体的には集団でのトラブルは少なくなってきた。 家庭の協力もあり、忘れ物は少なくなりつつある。身の回りの整頓については、まだ改善がみられず、物をなくしてしまうことが多い状況が続いている。
	2 学 期	
	3 学 期	
今 後 に 向 け て (引 継 事 項)		

(2) 各単元における指導計画

ア 単元の全体計画

【 】内は個別の指導計画（p46, 2）との関連

学年・教科	2 学年 国 語	単 元 名	友達に手紙を書こう 「お手紙こうかん会」
指 導 期 間	6 月上旬～中旬 全12時間		
単元の目標	全体目標	友達に聞きたいことや教えたいことを楽しんでのびのびと手紙に書いて交換する。また、お手紙交換会の感想を書き、手紙を交換することの楽しさに気付く。	
	個人目標	手紙を書く活動を通して書くことの楽しさを味わいながら授業に参加できる。【 】 教師のヒントを得て、イメージしたことを短い文章にすることができる。【 , 】	
学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に聞いてみたいことを出し合う。 ・ 友達や教師とのやりとりを通して手紙と返事の書き方を知る ・ お手紙交換会の感想や手紙を通して知ったことを文章にする。 		
支援の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書きたい気持ちを大事にしなが、本児が書きやすい用紙を準備したり、イメージをもちやすいように絵カードを見せたりする。【 A , B 】 ・ 友達の前で手紙を発表したり、教師の質問に答えたりする活動を十分経験できるような場を多く設けるようにする。【 C , D 】 		

イ 単元の学習経過（全12時間）

時間	全体の学習内容	本 児 の 目 標	支 援 の 方 法	学 習 の 様 子
1	友達に聞きたいことを探してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知りたいことを自分から発表する。 ・ 手紙を書く相手を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の内容や時間を表に示し見通しをもたせる。 ・ 手紙等がイメージしやすいよう具体物を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> A B ・ 発表の機会も多く、集中して授業に取り組んだ。 ・ 聞きたい内容を考える際は教師が個別の援助を行った。
4	友達と手紙を交換して、感想を話し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んでもらうことを意識し、丁寧に手紙を書く。 ・ 友達の手紙を読んで感想を発表する。 ・ 返事を書いて相手に届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児用のます目の大きい原稿用紙を準備する。 ・ 最初は教師がモデルを用意し丁寧に視写をさせる。 ・ 返事は、友達に手紙を読んでもらい、口頭で答えを返すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> B B C D ・ 内容を発表はできても、書く活動は自分からは難しかった。視写は進んで行った。 ・ 手紙は、できるだけ声を出して読むようにしたが徐々に自信が出てきた様子であり楽しく参加した。
4	いろいろな友達と手紙を交換しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生あてに丁寧に手紙を書く。 ・ 先生からの手紙を読んで内容を理解し返事を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 促音等に気を付けながら丁寧に書くように促す。 ・ 手紙の大事な部分にマーカーで線を引き、理解しやすいようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> B B ・ 相手が教師ということで安心して書いていた。文章のレパートリーも増えつつある。 ・ 線を手掛かりに理解はしたがまとめるのは難しい。
3	お手紙交換会の感想を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりとりした手紙の中から一つ選んで簡単な感想を書く。 ・ グループの中で感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児用に感想が書きやすい枠の入ったプリントを準備する。 ・ 本児のグループに教師が入り、発表等の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> B C D ・ プリントへの記入は、友達の援助を受けながら記入していくことができた。 ・ グループの中での役割を理解し、楽しく活動できた。

ウ 成果と課題

学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に聞いてみたいことを発表する活動は得意な領域であり、満足感の味わえる内容であった。手紙のやりとりについては、基本的な部分については大まかな理解ができたが、具体的な読み方、書き方に対しては、まだ細かな支援が必要な状況であった。
支 援 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全授業を通して、導入段階で内容と時間を本児に理解できる範囲で具体物や絵カードで示したことで、集中力の高まりに効果があったと思われる、今後も継続したい。書く学習は大きめのますを用意し、視写から入り抵抗感を少なくしたことがその後の意欲につながったと思われる。
今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くことにも自信を付けられるように、授業の中で賞賛する機会をできるだけ増やしたが、まだ、抵抗感強い。文章の構成については、いいモデルを提示しレパートリーを増やしたい。今後、本単元をきっかけにして、連絡帳等で教師と本児の手紙形式でのやりとりを継続したい。

(3) 本時の計画 (4 / 12)

ア 単元名 「お手紙こうかん会」

イ 目 標

【 】内は個別の指導計画 (p46, 2) との関連

全体目標	手紙を交換し合い、もらった手紙の質問を読んでその内容を理解する。 手紙の返事を考え、相手に分かりやすいように文章で書くことができる。
個人目標	教師や友達の支援を受けながら、最後まで集中して学習に参加することができる。【 , 】 手紙を声に出して読み、簡単な文章 (質問の答え) を丁寧に確実に書くことができる。【 】

ウ 支援に当たって

課題に対して見通しをもたせたり、隣によいモデルになるような児童を配置し、ペアを組ませたりすることで最後まで集中して取り組むことができるようにする。【 A , D 】

手紙を声に出して読む場を設定し、賞賛することによって自信を付けることができるようにする。【 C 】

エ 本時の実際

	学習活動・内容	全体の留意点	本児の支援に当たっての留意点	資料等
導入 5分	1 前時の学習を思い出す。 2 本時の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">友達に返事を書こう。</div>	(略)	・ 前時に書いた手紙を手元に配り、意識を高める。 ・ 本時の学習の内容と順番を絵と文字で、時系列に提示し見通しをもつことができるようにする。 ・ 同時に実物を見せイメージをもちやすいように	前時に書いた手紙 学習の手順カード
展開 30分	3 友達にもらった手紙を読む。 ・ 二人組をつくる。 ・ お互いの手紙を読み合う。 4 質問の答えを考える。 ・ 一人で考える。 ・ 二人で考える。 ・ 学級全体で考える。 5 返事を書く。 ・ 返事には答えのほかに自分の思ったことや考えたことも書く。 ・ 絵や図を入れてレイアウトを工夫する。 6 書いた返事を発表する。		・ ペアの児童の協力を得て、本児の分については最初、読みのモデルを示してもらう。 ・ あらかじめ手紙は拡大コピーし、キーワードになる部分にマーカーで線を引いておく。 ・ 本児が全体の前で元気な声で読む場を設定する。 ・ すぐに答えられるような簡単な質問を全員に出し、抵抗感をなくす。 ・ 手紙の質問をペアで読んだり、絵カードを見せたりして、イメージをもちやすくする。 ・ 本児が書きやすいように、質問に対応する形で、その下に枠を設け、ますを大きくした用紙を準備する。促音等にも気を付けて書くことができるようにますの中に補助線を入れておく。 ・ 友達の発表を注意して聞くことができるように声掛けをする。	拡大コピーした手紙 絵カード 本児専用の用紙
終末 5分	7 本時のまとめをする。 8 次時の学習内容を知る。		・ ペアの児童の協力を得て、できた手紙を見せ合うことで成就感をもつことができるようにし、短い感想を口頭で求める。 ・ 返事を届ける場面を実際に演技することで、次時のイメージをもつことができるようにする。	本時に書いた手紙

オ 評価

教師や友達の支援を受けながら最後まで集中して学習に参加することができたか。【 , 】

手紙を声に出して読み、簡単な文章 (質問の答え) を丁寧・確実に書くことができたか。【 】